

◎雪山に挑戦してみよう

高い山の稜線には雪が積もり、雪山シーズン到来です。いろんな山登りのスタイルが拡大している現在、登山人口はあまり多くありませんが、一步雪山に足を踏み入ると病み付きになる魅力があります。勿論危険も伴いますが、雪山教室や各種山行を重ねる事により、危険回避のノウハウが身につけてきます。

1. 必要な装備

必要な装備はそんなに多くないので、冬山を志す方は買い揃えて欲しい。一度買うとかなりの期間使う事が出来る。

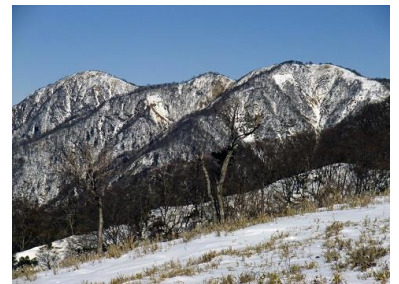


- ①アイゼン: 必要不可欠。10本から12本爪を用意してください。登山靴に合わせて買う事、多少のアジャストは可能。
- ②ピッケル: いろいろあるが、長さに注意。手で持って先端がくるぶし程度が丁度いい。店員が勧める短めはダメ。
- ③ワカン: 主流は金属タイプ。木製も捨てがたい。靴にあった大きさを選ぶ事。
- ④スノーシュー: 平原のハイキングには必需品。尾根の登下降には不向きでワカンの代用にはならない。
- ⑤登山靴: 冬専用としてしっかりした物を用意したい。5万以上の高級品は必要ない。
- ⑥ウェア類: 初級ではゴアの雨具や一般装備が良いが中級以上は冬山用各種オーバー類を揃えよう。いずれも購入するときは先輩の話等を参考にしながら慎重に。あまり安物を買うと銭失いになる。

1. 低山雪山の魅力

①初級の冬山(丹沢、奥多摩等)

丹沢でも雪山の魅力を体験できる。丹沢で雪の積もる時期は2月頃であろう。年によって違うが、登山道も比較的しっかりしているし、足慣らしに良いだろう。アイゼン、ピッケルの基本的な技術習得には危険も少なく、手頃である。年によっては膝上の積雪もあり、ラッセルの訓練もでき、天気も安定しており積極的に利用して欲しい。特に、ピッケル、アイゼンは自分の手足の様に違和感なく使い慣らす事が、重要である。アイゼンの引っかけには要注意である。



丹沢バカ尾根

②中級の雪山(奥秩父、八ヶ岳、谷川、那須、安達太良等)

中級になるとアイゼン、ピッケルは卒業してやや高度のテクニックが要求される。その一例を列記してみると

- ・ワカンを駆使した実践的なラッセルが要求されるようになる。詳細は個々の資料が有るので見て欲しいが、基本は花魁歩きである。まずは慣れ。
- ・場合によってはハーネス、ヘルメットが必要になる場合がある。勿論ザイルワークが伴うので、基本的な岩トレは必要不可欠である。
- ・積雪の多い所では雪崩の危険を予知するためのルートファインディングが重要で、沢筋は極力避けなければならない。この辺は経験が必要。
- ・天気予報を的確に行動に反映させなければならない。冬は気象遭難が多く観天望気を含めて、無理をしない行動計画が必要となる。
- ・食糧を含めた予備装備品の選択が大切である。持ち過ぎると重くなり行動に支障をきたすし、少なすぎると万一の場合遭難の危険がある。先輩等から話を聞きながら自分の適量を知る事



谷川岳、トマ、オキの耳

①北アルプス

北アルプスと言ってもピンキリであるが、入門コースは唐松岳であろう。ゴンドラとリフトを使うとかなりの高度が稼げるし、登山客も多く、安心である。アプローチに時間はかかるが、展望の良さは燕岳であろう。ここから眺める槍、穂高連峰の素晴らしさは格別である。その他、蝶ヶ岳や乗鞍岳等は比較的登山し易い。しかし北部程天気が悪く、登頂のチャンスは少なくなる。押しなべて晴天は3割程度である。



燕より槍、穂高連峰

②南アルプス

北アルプスに比べると雪は少なめであるが、アプローチが長い欠点がある。しかし北アルプスに比べれば晴天率は高く、甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳、塩見岳等が登山の対象となるだろう。登山客が少ないので、ラッセルドロボーはできない。

③中央アルプス

木曾駒ヶ岳は千畳敷までゴンドラが通じているので登り易い。宝剣岳は急な斜面がありやめた方が良い。尚、千畳敷では何度も雪崩が起きているので要注意。

④鳳凰三山

アプローチも短く、比較的登り易い。初期のテント山行にはお勧めである。

*いずれにしても経験のあるリーダーのもと、しっかりとした準備と心が前が重要。

勿論、ピッケル、アイゼン、ワカンは使いこなしていることが前提である。



北岳より塩見岳方面